

2018年(平成30年)10月13日 土曜日

# 日台友好の酒「朋」完成

## あすから飛驒で提供

飛驒市と台湾・新港郷の友好都市提携一周年を記念した日本酒「朋」が完成した。酒米は飛驒市から贈り、新港郷で育てられたものを使った。十二日から飛驒市で開かれる記念の交流事業で振る舞われる。

飛驒市は旧古川町時代から新港郷と二十年以上交流しており、昨年十月に友好都市提携を結んだ。都竹淳也市長が発案し、市が二月に酒米「ひだほまれ」の種もみを贈った。交流の中心となってきた新港



飛驒市と新港郷の友好の酒「朋」を掲げる渡辺さん(右)と徐さん(左)＝飛驒市役所で

## 新港郷へ種贈り栽培 古川で仕込む

郷のまちづくり団体「新港文教基金会」が栽培。日本より温暖な気候で苦労したというが、五十二キを収穫し、飛驒市に届けた。

渡辺酒造店(古川町吉之町)が精米し、飛驒産のひだほまれも加え、にがり酒を仕込んだ。七百二十ミリ瓶が八十本完成。辛口でコクのある仕上がりという。

十二日夜にある新港郷の約百人の訪問団をもてなす交流会などで提供する。

十日、同酒造店の渡辺久憲社長(四七)や同基金会の徐家璋さん(三三)らが市役所を訪れ、都竹市長に完成品を披露した。渡辺社長は「お米の仕上がりがあったより良かった。気持ちを通った友好の酒を両市の皆さんで楽しく飲めれば」と話した。徐さんは「気候が違うので米ができるか心配したけど、酒ができて本当にうれしい」と声を弾ませていた。

(浜崎陽介)